

## FSRJの創世記

(岡山大学・研究推進産学官連携機構) ○阪田祐作

### われわれは何者か

FSRJ [Research Association for Feedstock Recycling of Plastics, Japan] が、プラスチック化学リサイクル研究会として発足したのは1998年3月でした。その設立の主旨と目的は、産学官の諸機関および多分野に分散している研究者と技術者が横断的に結びついて、廃プラスチックの化学リサイクル関連研究を学術的かつ学際的な立場と広い視点を持って推進し、もってリサイクル社会の構築に貢献してゆくことでありました。以来、国内で開催されるFSRJ研究討論会と、国際シンポジウム ISFR [International Symposium on Feedstock Recycling of Plastics]の2本立ての活動により、FSRJは内外で広く認められるようになりました。すべて会員諸氏の日々の研鑽と努力の結果であります。+

FSRJ第一回討論会は1998年11月25-26日、岡山大学で開催されました。研究発表29件、ポスター発表20件、招待講演「化学技術戦略推進の基本構想」(小宮山宏, 東大大学院工 教授、化学技術戦略推進機構)、特別講演「フィードストックリサイクルの展開 —IUPAC ポリマーリサイクリング作業パーティーで学んだこと—」(明島高司, 東京理科大学教授, 本研究会会長)。限定されたテーマによる研究討論会であったにも関わらず、参加者は予想をはるかに上回り全国から約170名に達しました。

FSRJ設立の翌年1999年10月31日-11月3日の4日間にわたり、第一回国際シンポジウム(ISFR'99)が、奥脇明嗣東北大学教授を実行委員長として、仙台国際センターで開催されました。176名(国外14カ国から17名、国内159名)の参加者を得て、合計70件の研究発表(基調講演、依頼講演、一般講演、ポスター発表)が行われ、最終日には新潟プラスチック油化センター見学のテクニカルツアーを楽しみました。このシンポジウムが提示したISFRの理念は、海外参加者の力強い賛同を得て、国際組織委員ブリュッセル自由大学 A. Buekens 教授が第二回目をベルギーで開催することになり、2002年にISFR'02となって実現しました。以後2005年ドイツ・Karsruhe、2007年韓国・Jejuで順次開催されてきました。ご承知の通り2009年秋には中国・成都(四川大学)でISFR'09開催が予定されています。

### われわれは何処へ行くのか

創立10年を区切りとして、昨年6月に研究会日本語名称が「プラスチックリサイクル化学研究会」と改められました。この会則改訂に際して奥彬前会長のもとで、プラスチックのみならず関連材料の循環再生と有効利用を目標として、化学的現象と化学的手法にかかわる「リサイクルの科学と技術」をどのように社会に適用するかの議論がなされました。会員各自が自分の仕事・研究を次の時代に向けてどのように展開するべきかを深く考える有意義な機会であったと思います。

### われわれは何処から来たのか

環太平洋国際化学会議(PacifiChem)という化学者のお祭りのようなマンモス学会が、5年ごとに12月クリスマス直前にハワイ・ホノルルで開かれます。私は共同研究者の村田勝英氏(三井造船千葉研究所)と共に1995年PacifiChem'95に参加し、そこで村田氏から紹介されて吉岡敏明(東北大学工)先生に初めてお会いしました。3人でアルコールを介在させてのプラスチック分解の化学・科学・装置・工学・技術などの話に熱中しているうちに、「FSRJの構想(卵)」が生まれました。帰国した後1996年秋ごろ吉岡先生から紹介していただき奥脇教授にお会いして、あとは「山梨でマグロを獲る」研究に没頭しました。その後PacifiChem2005においてFSRJ主導セッションを持ち米国研究者を勧誘しました。2010年にもFSRJセッションが予定されています。